

## 2017年 第34回全日本武術太極拳選手権大会の追加種目 および伝統器械種目の制限事項について

日本連盟審判委員会  
日本連盟選手強化委員会

2016年度の第33回全日本武術太極拳選手権大会の終了後の日本代表選手選考会において、以下の2点が懸案とされ、つづいて審判委員会および選手強化委員会の議論を経て、来年度（2017年度）の同大会での種目の変更および追加を提案するに至りました。

### <懸案事項>

1. 長拳B種目の追加と長拳Aおよび規定難度套路の存続／廃止について  
国体種目でもある長拳Bを同大会の種目に追加する。ただし、2017年度のルールは従来（2003年国際競技ルール）で採点を行う。2018年度以降は2005年国際競技ルールで採点を行う。  
長拳A種目および規定難度套路種目の存続／廃止については、両論があり、さらに議論の余地がある。
2. 自選競技部門の「太極剣・刀」と伝統競技部門の「伝統器械」で、同一の種目が出現している。自選競技部門は都道府県選抜種目であるが、伝統競技部門は個人参加であり、選抜されなかった選手が個人で同一の種目に出場できることになる。

### <提案>

1. 長拳Bは徒手種目のみ追加し、長拳Aおよび規定難度は現状のままとする。
  2. 自選部門の「太極剣・刀」に属する種目で、伝統器械に出場申込みすることはできないこととする。
- 以上、提案が承認されましたら、早期に文発文書において各都道府県連盟に告知し、最終的に年末に送付する第34回大会の開催要綱に反映いたします。

以上